

小田原市食育推進計画骨子案に対する意見調査票まとめ

I 小田原市食育推進計画の基本方針（案）

1、基本理念について

☆は質問事項

<p>【原案】</p> <p>生涯にわたって健康でいきいきとくらすために一人ひとりが「しっかり食べる力」をつける。</p>	<p>【意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くらすは暮らすと漢字でよいのでは？
<p>【原案】 説明文</p> <p>生涯にわたって心身ともに健康で、いきいきと過ごすために、「食育」はあらゆる世代に必要であり、特に子どもたちが豊かな人間性をはぐくみ、生きる力を身に付けていくためには、何よりも「食」が重要です。</p> <p>しかし、現在、私達を取り巻く食環境は多くの課題を抱えています。</p> <p>(1) 「食」を大切にする心の欠如 (2) 栄養バランスの偏った食事や不規則な食事の増加 (3) 肥満をはじめとした生活習慣病の増加 (4) 食料自給率の低下 (5) 伝統的な郷土料理や食文化の喪失</p> <p>そこで、小田原市では、「子どもたち」と「生産からつながる食」に着眼を置き、親子ぐるみ、学校ぐるみ、地域ぐるみで、食育を通じて、健やかないのちを育む計画を推進します。</p>	<p>【意見】 説明文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(1) 食を大切にする感謝の心の欠如に修正 ・国の基本法の目的 第4条と第5条が欠落 ・(2) を栄養バランスの偏った食事や食習慣の問題（朝食欠食、孤食、外食の増加）に修正してはどうか。 ・(4) に食料自給率の低下と「食」の安全上の問題を追加してはどうか。 ☆・(4) の食料自給率についての詳細を聞きたい。 ・食の安全性の問題（添加物、残留農薬等）を追加してはどうか。 ・(6) に子どもの食育における保護者、教育関係者等の役割を入れる。 <p>☆・なぜ「子どもたち」と「生産からつながる食」に着目するのか、<u>根拠を明確</u>にしたい。</p> <p>例：「子ども」特に発育発達期にあり、生活習慣の形成期でもあるため</p> <p>☆・「生産からつながる食」の計画は具体的にどのようなことか。</p>

2、計画の位置づけと計画期間について

【原案】説明文	【意見】説明文
<p>(1) この計画は、「食育基本法」の目的・基本理念をふまえ、同法第18条第1項に定める市町村食育推進計画として、本市の食育推進施策の方向性や目標（めざす姿）を定めています。</p> <p>(2) 小田原市総合計画や関連する他の計画と連携した計画とします。</p> <p>(3) すべての食育関係者並びに市民がそれぞれの特性をいかしながら、連携を図り、食育活動に取り組むための基本事項を示しています。</p>	<p>・(3) すべての食育関係者 <u>(団体)</u> を入れてほしい。</p>
平成 23 年から平成 28 年度までの 6 年間の計画	

3、基本方針の全体についての意見

好きなものだけを食べる、食べたい時間に食べる、買ってすませるなどでは心身ともに健康にはなれない。また、自分たちが口にしていない食べ物どこからきているのか、どのように作られているのかを知ること（生産者との顔が見える関係があったり、自分で作ってみるなど）で感謝の気持ちなどが芽生える。

外食やファーストフード、買弁当などではなく、手作りの家庭のごはんの奨励。

愛情こもった食事やおやつで心が育つ。

ゲームやネットのバーチャル体験過多で実体験不足の現代の子ども達にとって、つくる、食べることは、家庭の中ですぐできる体験の場である。（台所で育つことができる）

食糧自給率の向上は国力の向上につながる。食は生活リズムの基。

味噌・醤油などの日本古来の調味料、発酵食品が毎食、食卓にのることだけで、日本の食文化の継承につながっていく。

親子で一緒に作物を育て、土に触れる体験をすることは食育につながっていく。

味覚は育てるものという認識を広める。

今、学校現場で問題になっているのは子どもたちの基本的な生活習慣の乱れである。

そのことが要因となり、生活の規範意識や学習時の集中力の欠如などが問題とされている。その基本的な生活習慣を支えているのが「食」であり「睡眠」と思われる。

朝食抜き、不規則な食事、孤食、インスタントやファーストフードによる食事は中学生には決して珍しくない。そうした現状から、食育は早急の課題であり、『生涯にわたって健康でいきいきとくらすために一人ひとりが「しっかり食べる力」をつける』という基本方針には賛成。（ただ、今の食の乱れをつくったのは大人であり社会であることを考えると、簡単に解決する問題ではないことも事実。）

Ⅱ 小田原市食育推進計画の施策体系（案）

1、大目標について（基本理念と同）

<p>【原案】</p> <p>生涯にわたって健康でいきいきとくらすために一人ひとりが「しっかり食べる力」をつける。</p>	<p>【意見】</p>
--	--------------------

2、具体的な目標について

<p>【原案】</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 15%;">目標 1</td> <td>健康に配慮した食習慣を身につける。</td> </tr> <tr> <td>目標 2</td> <td>バランスよく食べる。</td> </tr> <tr> <td>目標 3</td> <td>食の安全・安心について理解を深める。</td> </tr> <tr> <td>目標 4</td> <td>食べ物を大切にする気持ちを育む。</td> </tr> <tr> <td>目標 5</td> <td>市民・団体・行政が一体となって食育を推進する。</td> </tr> </table>	目標 1	健康に配慮した食習慣を身につける。	目標 2	バランスよく食べる。	目標 3	食の安全・安心について理解を深める。	目標 4	食べ物を大切にする気持ちを育む。	目標 5	市民・団体・行政が一体となって食育を推進する。	<p>【意見】</p>
目標 1	健康に配慮した食習慣を身につける。										
目標 2	バランスよく食べる。										
目標 3	食の安全・安心について理解を深める。										
目標 4	食べ物を大切にする気持ちを育む。										
目標 5	市民・団体・行政が一体となって食育を推進する。										

3、基本的施策について

【原案】		【意見】
施策 1	家庭における食育の推進	
家庭は食を大切にすることを育み、基本的な食習慣を身に付け、生涯を通じて健康な生活をおくるための基礎的な場であり、学校、団体等と連携し、家庭における食育を推進する。		
施策 2	学校、保育所等における食育の推進	
家庭や地域と連携し、学校、保育所等における子どもの健全な食生活の実現と健全な心身の成長を図る。		
施策 3	地域における食生活改善のための取り組みの推進	
地域において、団体、事業者等と連携した食育を推進することにより、栄養・食習慣・食料の消費に関する食生活の改善を推進し、生活習慣病を予防する。		
施策 4	食育推進運動の展開	
市民一人ひとりの食育への関心を高め、市民、教育関係者、農業者、漁業者、食品関連事業者などの民間団体の自発的な食育活動を支援し、食育を推進する。		
施策 5	生産者と消費者の交流の促進及び環境と調和のとれた農林水産業の活性化	
生産者と消費者の交流により、食料の生産が自然の恩恵の上に成り立ち、生産者など多くの人々の活動に支えられていることへの理解を深め、地産地消と環境に配慮した食料生産を推進する。		
施策 6	食文化の継承、展開のための活動の支援	
小田原の歴史を背景に育まれた食文化に対する理解と関心を高め、地域の特色ある食文化を新たに発見し、豊かで彩りあるおだわらの食文化を継承する。		
施策 7	食品の安全性、栄養、その他食に関する調査、研究、情報提供	
食品の安全性や栄養に関する膨大な情報が提供される中、市民が正しい情報を適切に選別し活用する力が養えるよう、県や団体と連携し、食中毒の予防や食品の安全性、栄養に関する適切な情報を提供する。		
		<ul style="list-style-type: none"> ・食文化の継承は、現在では小田原の伝統食、文化が失われているような感じがある。 食の大切さ、食べる力には、是非伝統食を食べてこそ、小田原の地で生きていることが実感できると思う。

4、想定される取組について

【原案】		【意見】
施策 1	家庭における食育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施策 1 の想定される取組について 一番上は、<u>○家庭教育力の充実</u>がよいと思う。 ※この理由については、全体についての意見へ転記 ・ 施策 2 の想定される取組について 学校における食育の推進（<u>全体計画の作成</u>）を追加してはどうか。 ・ 施策 6 の想定される取組みについて <u>食文化の担い手の育成</u>を入れて頂けないか。 （すでに小田原市で取り組んでいる事業（資料 7）があるのでいいのではないかと思われる。）
	○家庭の健康づくり ○調理力の向上 ○家庭教育力の充実	
施策 2	学校、保育所等における食育の推進	
	○学校における食育の推進 ○学校給食を活用した食育の推進 ○幼稚園における食育の推進 ○保育所における食育の推進	
施策 3	地域における食生活改善のための取り組みの推進	
	○生活習慣病等の予防対策 ○食に関する普及啓発	
施策 4	食育推進運動の展開	
	○関係者との連携による推進 ○食育推進のための意識啓発 ○関連した市民運動との連携（8020運動、環境保全）	
施策 5	生産者と消費者の交流の促進及び環境と調和のとれた農林水産業の活性化	
	○生産者と消費者の交流の促進 ○地産地消の促進 ○環境に配慮した取り組みの推進 ○教育ファームの推進	
施策 6	食文化の継承、展開のための活動の支援	
	○伝統ある食文化の継承と促進	
施策 7	食品の安全性、栄養、その他食に関する調査、研究、情報提供	
	○食の安全性に関すること ○栄養に関すること	

5、施策体系（案）全体についての意見

- ・ 全体的によく練られた骨子案だと思う。

小田原市の食育に関わる事業の一覧をみれば分かるが、施策①のウに家庭教育力の充実の中に「おだわらっ子の約束」をどの様に家庭に浸透させるのか、そこが問題。

現在、言葉だけが一人歩きしている。

基本理念の中にしっかりした躰や生活規範を身につけるとあるが、その躰や規範を身につけさせるのは、家庭の親である。

その親の理解と指導がなくては、実践することは難しい。

家庭教育力の充実をはかる為には、まず親の教育が第一と考える。例えば、PTA。

保護者会（保育園、幼稚園）などで親を対象に「おだわらっ子の約束」の大切な意義、家庭での取り組み方をわかり易く事例をあげ、今が人間形成上大切な時期だという事を知らせる。親への教育の取組が前提である。

それがなくては家庭教育力の充実は果たされない。よって、想定される取組の一番上に家庭教育力の充実を明記していただきたい。

始めてから新たな気づきやした方がよいことがでてきた場合に、決めた取り組み方法を変えたり、方向転換できる柔軟さを持ちたい。

- ・ 学校の中の農園の位置づけ、取り組み
- ・ 家庭菜園・市民農園・ベランダ菜園などの普及
- ・ 生ごみの堆肥化、コンポストなど市全体で市民が取り組むことで、食～環境、まちづくりまで含まれる。
- ・ 先進事例や他地域での取り組みの研修

想定される取り組みは、できるだけ具体的イメージでき、市民の生活により近い形であげられるとよいと思う。

学校における食育の推進という部分では難しさを感じている。中学校ではかつて家庭科の授業の中で調理実習という時間がかなり保証されていた。その他の栄養素の学習なども含め、家庭科という教科が「食育」の中心的な役割を担っていたが、今その家庭科の授業時数が大幅に減らされ、「食」にかける時間も年間の中でわずかな時間になってしまった。

また、学校で実際に食事をするのは給食だけであり、給食時にはいろいろ食事のマナー等の指導はされているが、それ以外の「食育」の場面となると特別に設定しなければならない状況で、授業時間数確保が最優先される今、継続的に取り組むには課題が多い。

子どもたちの「今の食の状態」をすぐに変えるのは学校では限界があると思う。

学校が行う「食育」は、将来成長して大人になった時の「よりよい食習慣の形成」を目指すものかと思われる。行政主導の中で具体的な施策を展開していくことは大切なことであり、市、あるいは地域全体の食育への関心を高め、「食育推進」のうねりを創りあげることがポイントかと思う。まずは、環境づくりではないか。学校もそうした環境の中で地域と連携して取り組めればより効果的かと思う。

所管課がそれぞれあるようなので、横の密接な連携を図ることもお願いしたい。